

- 4 昼 食 正 午～午後十二時三十分 朗峰会館西の間
- 5 全体会議 午後十二時三十分～午後二時三十分 朗峰会館東の間
- 6 閉会式 午後二時三十分～午後三時 朗峰会館東の間
- (イ) 宗務所長より推薦された本宗教師（一名乃至二名）
- (ロ) 中央・地域教化研究会議運営委員

十一、参加資格

## 基調講演

### 中 濃 教 篤

（現宗研顧問）

我々は、何を考え何を重点的に、人類に対し取り組んでいかななくてはならないのか。このような問題点を、核問題という視点にたってみていきたいと思う。

「池上」という雑誌の中で、金子日威管長がのべられ

ているように、現在問題となっているのは、核戦争による人類絶滅の危機である。昭和五十五年九月、当時の国連事務総長であったワルトハイム氏は、「世界に現存する核爆弾の総数は四万発を超えている。その威力はヒロシマ型の原爆の百万個分に当たり、人類消滅の危機が著しく高い」と指摘している。またその前の昭和五十三年には、第一回国連軍縮特別総会が開かれたが、そのうらで核兵器の準備が大幅に増大されている。これを別の角度からみると、核の軍備競争は軍事費がかさみ、人々の生

活を圧迫させているのである。これは、あらゆる国で軍備を増強する事を進めていく点においては、共通する問題である。とりわけ、開発途上国へのしわよせは強く、こういうことが貧困や飢餓を生み出している。たとえば、WHO（世界保険機構）によると、マリリヤを絶滅するのに四億五千万ドルかかるとされるが、これは世界の一年間の軍事費のわずか一％にすぎないのである。このことは、我が国も例外ではなく、この間の税務問題も背景としてこのような問題があつたのである。

昭和五十七年六月、第二回国連軍縮特別総会が開かれたが、日蓮宗からは管長と宗務総長のメッセージと要請文が手渡された。ただそれがどれだけ影響を与えるかはわからないが、ほんとうに影響を与えるためには、我々がいろいろな形で草の根運動を続けていくことが必要である。我々は得てして『法華経』『立正安国論』に教典を求めて問題を提出しているが、他の仏教徒達はどのように考えているのであろうか。昭和五十四年にアジア国際平和会議が開かれ、そこには小乗大乘ともに共通した原理があつた。その原理とは、人間存在というものは、他

とは無関係ではあり得ないという事である。我々の核兵器廃絶運動もこういう原理にたつて理解しなければならぬ。ここにはじめてナシヨナリズムとインターナシヨナリズムとの正しい結合的把握ができるのである。こうした意味での日蓮聖人の国家観というのは、単なる国家主義ではなく、仏国土をしっかりとらえたものということである。ナシヨナリズムとインターナシヨナリズムとは、日蓮聖人の場合は見事に調和されているという点で、立正安国の国は日本であるけれども、同時に、日本だけではないというとらえ方である。

日本で受け止めたほんとうの仏教を活かす思想を持つていけば、それを世界へ返さなければならぬ、というのが日蓮聖人の発想であるが、今こそ、我々が世界へ帰す先達にならなければならないのではないだろうか。また、我々が仏教の観点において研究しなくてはならない中に、仏教のカルマの思想がある。日蓮聖人は「定業すら能々懺悔すれば必ず消滅す」と述べられている。ここに日蓮仏教の大きな特色がある。懺悔とは、自分自身が心の中で反省するということも含んでいるが、同時に日

蓮聖人の考え方からすれば、それは実践となっていないければならないのである。それが、『立正安国論』に則していえば、諫暁になる。その諫暁の今、人類に対する諫暁とすれば、私は、核戦争をこの世からなくしていくということが大事だと思う。今こそ、仏教の原理で世界に向って諫暁していく時期にきたのではないだろうか。一例をあげてみると、日本山妙法寺の藤井日達師がおられる。アメリカでも共鳴する人達も多く、我々も日本山妙法寺に学ぶべきものがあると思う。

最後に、NHKの放送世論調査を見て考えたことであるが、仏教というものがまだ日本国民の中には重要な要素を占めているのではないだろうか。そうであるならば、我々が本当の仏教を教えていくことが必要である。今後、我々がそれぞれの布教活動の中で生かすためのより強力な態勢をつくっていかねばならない。

## 《特別報告要旨》

### 南無の会活動について

酒 井 謙 祐

(東京・実相寺住職)

信徒に南無とは何かといっても、南無妙法蓮華経とは知っているが、南無と切りはなすと、答えられない人が多い。心からの信仰は南無にはじまり南無に終り、この南無が生きて心の中に入っていない、これは大変なことで、これを蘇生させる必要がある。南無の会の創造はここにある。少年時代の理想が、ある年齢がくると、現実は甘くないといわれる日常生活に、私達は根本的なものを失っている。その中で僧侶だけは理想を持続けてやっていくと、それが仏性を掘りおこし南無を掘りおこすことになる。人間が日常生活どういことをベースにして生きているのか、やはり心をベースにして考えることが大切で、その根底には、やさしさ・思いやり・いたわりを通して物事を考えていく、その気持を育てていく、その心